

令和7年度 長野県小諸商業高等学校 学校評価 自己評価（中間）

学 校 教 育 目 標	中 ・ 長 期 的 目 標
教育活動を通して、個人の尊厳と協調の精神を体得させ、民主的な国家社会の形成者たる資質を培うとともに、専門教育により広く国民経済における商業諸活動の担い手としての有為な人材を育成する。	・心身ともに健全で、人間性豊かな生徒を育てる。 ・学校及び社会生活の規律を重んじる心を育てる。 ・学習習慣を確立させ、自ら学び自ら考える態度を育てる。 ・進路目標を明確にさせ、その実現に向けて粘り強く努力する姿勢を育てる。
今 年 度 の 重 点 目 標	
・ 基本的生活習慣の確立および、挨拶・身だしなみの徹底を図る。 ・ 自ら問いを立て、その解決に向けて主体的・協働的に取り組む力を育成する。 ・ 地域社会との連携や協働による活動を通し、探究的な学びを推進する。 ・ 学習活動や様々な行事等へのICTの積極的活用、および知見の共有を推進する。 ・ 生徒一人ひとりの人権を尊重し、いじめ・体罰等のない、安心安全な学校をつくる。	

A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D:達成できなかった					
部	担当	今年度の重点目標	具体的な方策	評 価	今後の課題・改善策等
教務部	教務	円滑な学校運営の推進	・学習活動やさまざまな行事の目的・実施方法を全職員で共有し、生徒一人ひとりが主体的・協働的に学ぶ力を身につけられるよう、各部や担当者と有機的に連携しながら学校運営を行う。生徒の安全安心及び学びの保障を第一に考え、社会的変化に応じて3F（Fast:迅速に、Fair:公平に、Fun:楽しんで）を基本に臨機応変に対応する。	B	・4月にインフルエンザによる学級閉鎖や休校があったが、臨機応変に対応することができた。その後は、引越予定に伴う定期考査の日程変更等があったが、大きな混乱もなく、学習活動が行えている。1学期終業式、2学期始業式は熱中症への警戒から放送により実施した。 ・教員数が減少する中、4つの部内で協力し、機能して、学校運営ができています。年度末に向け、様々な行事や活動があるが、教務係としては、各部の調整役であると意識し、引き続き円滑な学校運営ができるよう対応していく。 ・新校の内規作成を、各校・各部署で進めている。教務内規・運用規則も完成に近づいている。 ・北棟3F4Fの工事が完了し、授業やその他会議・研修等で利用している。今後は1F2Fの利用も可能になるので、各係と連携し、利用方法の周知徹底を行う。 ・大職員室やその他の部屋の引越も、準備・計画がしっかりとできたため、スムーズに完了することができた。
			・来年度の小諸新校の開校に向け、内規や学校行事などの精査および具体化を進める。その過程での定数減や新校準備に伴う職務負担の増大を職員間でフォローできるよう、互いに寄り添い、声を掛け合い、対話できる雰囲気や機会を創り出せるよう運営する。		
			・新校開校に関わる校舎改築などの工事が行われる中、学校運営や生徒の学習活動になるべく支障がないよう、事前の周知をしっかりと行い、共に、職員や生徒が行う物品の移動作業等が円滑にかつ安全に進むよう計画をする。		
	教務	広報活動の充実と生徒募集対策	・体験入学、授業公開、クラブ体験、入試説明会など、在校生が活躍することで、本校の活きた空気を中学生に感じてもらえるよう、計画/実施/支援する。	B	・体験入学では、各分野で活躍している在校生が中学生に話をし、質問に答える「小商生に聴こう」を今年度も行った。生徒会生徒も運営に携わった。在校生の活躍を来校者に見てもらえるよい機会となった。 ・公開授業やクラブ体験会を告知するためのパンフレットやポスターをHPにアップしたり、配布したりした。クラブ体験会は小諸高校と合同で実施した。参加人数を昨年より増やすことができた。 ・今後も学校説明会が予定されているので、新校の周知に努める。
			・中学校訪問だけでなく、個別出張説明会を広報し、より多く出向くことで、より多くの中学生や保護者が本校に触れる機会を増やし、その中で商業の魅力や価値を発信して「伝わる」「行動させる」ような工夫をする。新校開校に向けて、学校生活を具体的にイメージ出来るような学校パンフレットや案内の作成を行う。		
	PTA同窓会	PTA活動の充実	○厚生委員会 ・「PTA講演会」の企画	B	・PTA講演会は計画通り実施した。 ・「朝の声かけ指導」は例年通り実施する予定。 ・「PTA会報」は例年通りする予定。
			○教養・生徒指導委員会 ・「朝の声掛け指導」で生徒とふれあう ・「PTA会報」の内容充実 ・「PTA同窓会講演会」の企画		
		学校に足が向くPTAづくり	・PTA講演会・総会・学年学級PTAへの参加呼びかけ ・スマイル小商店街・合唱コンクールへの参加呼びかけ ・PTA同窓会講演会への参加呼びかけ	B	・PTA講演会、総会、学年学級PTAは計画通り実施した。 ・スマイル小商店街・合唱コンクールは詳細が確定した時点で参加呼びかけを行う。 ・今年度のPTA同窓会講演会は同窓会が担当したが、運営等の協力を行った。
		同窓会 学校や生徒のニーズに合った講演会の計画・実施	・より良い同窓会（PTA共催）講演会を企画する。	B	・PTA同窓会講演会を企画し実施した。本年度は同窓会係が主担当となって実施したため、PTA係としては出席者の確認等運営面のサポートを実施した。
			・学校、生徒の要望を正確に捉え、同窓会として応えられることを行っていく。	B	・同窓会事務局と協力し、同窓会報の発行など連携して行った。

	ICT	学習活動へのICTの積極的活用の推進	・ネットワーク環境を活かせるよう機器の導入、管理、メンテナンス等を行う。 ・GIGAスクールサポーター、職員による研修会を実施する。 ・教員、生徒の一人一台端末の運用のサポートを行う。	B	・機材の管理、整備を行った。 ・GIGAスクールサポーター個別研修を必要に応じて実施する。 ・引き続き、行事や授業でICTを活用しやすい環境を作りを行う。
生徒指導部	生徒指導	登下校中の安全の確保	・登下校指導により交通ルールを徹底させる。 ・自転車通学者に交通安全を定期的に啓発する。 ・自らの命の大切さと他者への安全配慮を徹底する。	B	・登下校指導で継続しておこなう。 ・自転車登校の生徒数は少ないが、その他生徒にもヘルメット着用を徹底する。 ・各HRや全校集会などで注意喚起をおこなう。
		身だしなみの確立	・家を出る時から帰宅まで身だしなみを崩さない指導と助言を行う。 ・オフィシャルウェアとプライベートウェアの違いを理解させる。（2・3年生） ・TPOに即した服装を意識させる。（1年生） ・特にに式典時の身だしなみ指導を徹底する。（全校）	B	・ネクタイリボン、スカートの正しい着用ができない生徒がいるため、身だしなみ指導の徹底を粘り強くおこなう。 ・一部で改善の必要がある。継続的に理解を深めるよう指導を行い、正しい身だしなみで生活できるようにする。 ・概ね整えさせることができた
			・授業時のアクセサリ類（特にピアス）について全職員で共通認識を持ち、外す指導を徹底する。	C	・見かけたら注意するということを職員の共通認識としてこれからも粘り強い指導を行う。
	人権平和	・人権意識の向上、道徳教育の推進	・全校生徒対象の人権の講演会（または映画観賞会）を実施する。 ・各教科と連携し、出身や性別、年齢等、様々な立場にある人々について、全ての人が人権を持ち平等であることを学び、自立した他者としてよりよく共生できる感性と態度を育成する。	B	・9月末に講演会を実施した。
		・主体的に平和を構築できる意欲と態度の育成	・修学旅行の事前学習や各学年行事など学年とも連携して、安心して生活できる環境（防災や平和への意識）のありがたさを認識させる。また授業などで各教科とも連携し、生徒が戦争の悲惨さや平和の大切さを継続して意識できるよう、配慮する。	B	・社会科の授業で、3年は時事問題を扱う中で現代の戦争を学び、2年は広島への修学旅行の事前学習として「人権学習」を実施した。
		・命の大切さを理解し、差別やいじめを許さない意識と態度の育成指導	・生命の大切さや人間としての尊厳を理解し、あらゆる差別やいじめ、不正を排除し、自他を尊重できる心と行動を育成する。	B	・今年度は人権を考える上で、生活の中で起こりうるデートDVについて、講師を招いて講演会を行った。これからもその時々具体的な社会問題等を取り上げ、学習を深める機会にしていきたい。
	生徒相談	いじめ・悩みを抱えた生徒及び特性を持つ生徒の掌握と適切な対応・支援	・アセス、「いじめ・悩みに関するアンケート」実施 ・生徒相談委員会、学年、学級担任、保健室との連携 ・SC、SSW、巡回支援指導員の活用 ・教育相談調査票の実施と活用 ・支援会議の計画・実施 ・支援に必要な情報提供	B	・11月に2回目のいじめ悩みアンケートやアセスの実施が予定されており、結果を活用できるようにする。 ・夏休み明け、2年生対象の巡回支援員の久保田先生にSSTの一環として講演していただいた。 ・2月に3学年への自殺予防に関する学習が予定されている。 ・支援会議や巡回支援指導員、SC、SSW活用に関しては適宜行っており、今後も必要に応じて行っていく。
	保健	健康の保持増進を図り、生涯を通じて自らの健康を適切に管理できる資質・能力を育成する。	・定期健康診断や健康相談等を通じ、自らの健康課題を把握し改善することができるよう支援する。 ・正しい知識を持ち適切な意思決定や行動選択ができる能力を養うため、保健講話等を実施する。	B	・健康診断の結果、受診が必要な生徒には通知を出し早期受診を勧めた。まだ受診に行っていない生徒については、担任とも連携を図りながら進めていく。 ・体調不良の原因が生活習慣の乱れやストレスによるものが多い。個別の保健指導や健康相談を引き続き実施していく。 ・1、2年生対象の保健講話(性に関する教育)は実施済。3年生は10月に薬物乱用防止教育を実施予定。

進路指導部	進路指導	生徒の進路意識の熟成と自己理解の深化	・日頃より情報収集に努め、様々な経験を通して生徒が自分の生き方を考えられるような進路行事を企画する。	B	・現実的な視点に立ち、将来を模索する機会となるような進路行事が実施できるように心がける。6月の進路行事日では各学年に見合った行事を企画し、運営することができた。
			・上級学校と連携した出前授業や特別講座を積極的に取り入れ、個々の生徒の成長を促す。		・目的意識が向上し、主体的に学習に取り組めるように、生徒にとって効果的な外部講師による講座を検討する。8月の四大進学講座では外部講師を招き目標進路実現のための効果的な意識付けができた。
			・企業の雇用情勢や業務内容に注目をさせ、仕事への適性について考えさせる。		・就職支援員による雇用情勢や本人の適性についての面談や面接試験対策が職業意識の向上につながった。引き続き協力を得ながら適切な指導・助言を行えるようにする。
			・高大接続改革に向けて情報収集をするだけでなく、共有の場を設け、受験に対する指導体制の構築を図る。		・高大接続改革による生徒への影響を考えながら、早めの対応できるように情報収集を行い、指導体制の整備ができるよう心がける。
		スタディサブリの有効活用と基礎学力の定着	・生徒に対する動機付けおよび意識付け、職員への情報共有を行い、より有効な活用方法を模索する。		・1回目の到達度テストを実施した。結果を生徒にフィードバックすることで生徒の学習意欲に結び付け、基礎学力定着のきっかけとしたい。
	・基礎学力定着のための学習計画の立案と実施		・到達度テストの結果をもとに生徒が自分の現在地を確認できた。基礎学力定着のための学習環境の整備やスタディサブリの活用方法について学習指導委員会と協働で計画を立案中である。		
	図書視聴覚	生徒の教養・知識の育成と学習センターとしての役割	・図書館利用の促進を図る	B	・統合に向けて蔵書の分類整理の徹底と館内と書庫の廃棄など環境が整えられた。 ・委員の当番活動の徹底を促す。
			・図書委員の指導		
			・図書の貸し出し返却の手続き・貸し出し期限の厳守		
		必要な情報を収集、選択、活用する能力育成のための情報センターとしての役割	・蔵書の配分比率に即して本を収集する	B	・生徒、職員からの希望に応え、図書館利用が促進された。 ・近隣の図書館ネットワークを利用し、授業で活用する資料を集めることができた。
			・購入希望調査		
			・図書館教諭・司書の研修会参加		
読書を楽しみ、想像力と豊かな心をはぐむ読書センターとしての役割		・広報活動を積極的に行う	B	・図書館便りを定期的に発行し、生徒、職員、保護者に情報を発信した。 ・佐久高等学校図書委員会に正副委員長とともに参加し、他校の活動状況を学ぶことができた。	
		・他校との交流			
生徒会活動/各種行事等における適切な放送運営	・各種行事においては、生徒が主体的に行動できるよう日頃から機材等の取り扱いを指導する。芸術鑑賞では、生徒が進行できるようサポートする。	B	・日頃の放送や行事における放送も計画通り実施することができた。芸術鑑賞も生徒が司会を行うなど、学びのある行事にできた。 ・放送機器の新調によるトラブルは今のところ発生していない。 ・今後も合唱コンクールなどの行事も控えており、生徒が考えて行動できるようにサポートしていく。		
	・生徒会役員および教員と連携がとれるよう、適切な助言を行う。				
	・各種行事では感染症や気温などの状況により、急な変更にも柔軟に対応できるよう、日頃よりICT機材の準備に慣れさせる。				
生徒会部	主体性、協調性を持たせ、積極的に委員会活動へ参加させる。	・委員会活動の意義と各委員会の役割を理解させ、自覚と責任をもって仕事に当たらせる。	B	・責任のある立場ということを理解できるようになってきた生徒もいる。今後、役割分担を明確にして、各人がそれぞれに活躍できるように指導を継続する。 ・新しい活動を企画・実行できる委員会も出てきた。新校の生徒会組織作りに向けて、考えることだけでなく、自ら考えたことに責任を持ち実行していけるように工夫する。	
		・受け身ではなく、自ら出来ることを考え、実行していけるような積極性と責任感を持たせる。			
	各種行事に全力で取り組み、一つ一つの行事が役員だけでなく全校生徒が満足のいくものとなるよう努力する。	・各種行事については、全校生徒が「与えられて」行うのではなく、全校生徒で「作り上げて」いけるようなものとなるよう工夫させる。	B	・小商祭では、役員同士で意見を出し合い、熱中症対策のための急な日程変更にも柔軟に対応し、自分たちの理想とする文化祭を作り上げるよう努力できた。 ・計画的に準備を進められず、本番での対応に苦慮する場面もあった。それを踏まえ、今後はリハーサルを丁寧に行う等適切な指導・助言を行う。 ・新しい学校づくりを通して、生徒会は自分たちで運営していくものだという意識を高めていく。	
		・行事の企画運営に関し、リハーサルの徹底にこだわり本番さながらの準備ができるよう、適切な助言・指導を行う。			
		・新校開校に向けて、小諸商業の生徒会活動を発展的に継承し、より一層活性化することを目指して、自治の精神を育む。			
	整美	校舎内外や学校周辺地域の環境美化に取り組む。	B	・各清掃担当場所の清掃用具の点検や要望等を聞きながら、不足している用具を整備した。学校周辺の地域の環境美化の取り組み方法を検討したい。	
		ゴミの分別の徹底を図る。	B	・燃えるゴミと燃えないゴミの分別が不十分な箇所がある。資源ごみと燃えるごみの分別やゴミの減量化を繰り返し呼びかけていく。	

学年	今年度の重点目標	具体的な方策	評 価	今後の課題・改善策等
一学年	基本的生活習慣の確立をし、高校生としての自覚を持ち行動できるようにする。	・挨拶、身だしなみ、時間を守ること、提出物の期限を守ることなど日々の声掛けを通じて生活習慣の確立を促す。 ・スマートフォンの扱いや日頃の振る舞いなど、高校生として自分の行動に自覚と責任を持つことの大切さを教える。 ・職業について知り、これからの進路について考えさせる。	B	・スカートを折る、ピアスをつける等の身だしなみの乱れも見られるため、生徒が自らＴＰＯを考え身だしなみを整えられるよう声をかけていく。 ・スマートフォンのルールを再度確認をするとともに、機器やメディアとの付き合い方を考える必要がある。進路オリエンテーションや商業科ガイダンスを設定し、生徒が進路について考える機会をつくった。
	学習習慣を身に付け、主体的・協働的に取り組む力を養成する。	・学習環境を整え、日々の授業に集中して取り組めるようにする。 ・グループワーク等を通じ仲間と協働して課題の設定・解決、合意形成ができるようにする。	B	・各クラスの学習環境の整備を継続して行っている。ビジネス基礎をはじめ、各教科/科目においてもグループワーク等により、学び方も学んでいる。タブレットＰＣを自ら活用して学ぶ生徒も出てきている。
	人権尊重の姿勢を育む。	・ソーシャルスキルトレーニングなどを実施し、他者との関わり方を学ばせる。 ・いじめ悩みアンケートや日々の生徒の様子から問題の早期発見・解決をする。 ・自身を傷つけないことはもちろん他者を尊重できる行動を身につけさせる。	B	・ソーシャルスキルトレーニングや性被害防止講演会を設定し、他者との関りやより高い視座などの気づきを提供した。対人トラブルもあるが、その都度の早期に対応するよう努力している。
二学年	毎日積み上げていく前向きな習慣 同じ目的に向かって力を合わせて行動できる集団	挨拶、清掃、身だしなみ、時間の管理、提出物の厳守等、日々の声がけを通じて生活習慣を確立する。学習空間の整頓・清美は継続して毎日行う。自由と放縦の違いを認識させ、自身の行動に責任と覚悟を持たせる。人は人で磨かれる。他者視点に立ってお互いを認め合いながら、自他が傷がつくことを恐れず、積極的にコミュニケーションがはかれるように促す。	B	・自分の行動に責任をもって積極的に行動できる生徒が多いが、身だしなみの乱れ、授業に対する姿勢等が不十分な生徒もいるため、日ごろからの声かけが必要。 ・修学旅行を集団行動学習の機会と捉え、自ら考え、協調する大切さを体験できるよう準備を進めている。
	生徒自身が主導権を手放さない 「～してもら」「やらされている」のような受け身マインドからの脱却 挑戦して、失敗して、立ち直るのサイクルを回し続ける	進路決定への道程において、生徒自身が覚悟を持って自己決定できるよう支援する。日々の学習活動においても、生徒自身が学びの主導権を握り、自走する学びの意識付けを行う。将来つまずいたりうまくいかなかったときに他人や社会のせいにはしない強い人材を育成したい。成功の反対は失敗ではなく、挑戦しないこと。失敗や恥ずかしさを恐れて挑戦しない、失敗をしないとわかっていることを安易に選ぶことは、生徒の自立の妨げになりかねないことを肝に銘じて日々接する。	B	・授業や検定への積極的な取り組みがみられる生徒がいる一方で、まだ不十分な生徒も多い。講演会、進路希望調査や科目選択を利用して、懇談会等で自身の将来を家庭の同意も得ながら方向性を決めていく。
	人権尊重の姿勢 民主主義と平和の大切さ	自分自身を傷つけない。相手を尊重して寄り添う心を醸成する。アンケートや日々の観察から早期発見を心がけ、生徒自身が解決できるようサポートする。 対話による納得解の合意形成がなされるような空気作りを心掛ける。広島への修学旅行を通して、平和や合意形成、そして集団行動の大切さを学ぶ。	B	・友人関係をうまく構築できない生徒に対してどう指導していくのが課題である。俯瞰的な視点を意識させるとともに、学校行事や学年行事等を通して学ばせていきたい。
三学年	基本的生活習慣や、集団の中での行動を通して社会人基礎力を養成する。	・授業や学年集会などを通して、時間厳守、身だしなみについて繰り返し指導する。公私の区別をつけ、自ら学習環境を整美する姿勢を身に付けさせると共に、主体的に学習に取り組む習慣づけを行う。	B	・生徒会活動などで自主的に活動する姿が多く見られた。清掃徹底や時間厳守等の基本的な事柄から最上級生としての自覚と責任を持つことができるよう今後も指導を継続していきたい。
	自ら考え、主体的かつ協働的に行動する力を養う。	・授業を通して、目的意識や課題を持ち、主体的に学習に取り組む姿勢や学習習慣の確立をする。また、学校行事や全校での販売実習により他者を尊重して活動する力を身につける。	B	・日々の活動の中で、基本的生活習慣を繰り返し指導している。進路活動において主体的な姿勢を持っていた生徒がいる一方で、まだ不十分な生徒もいる。今後もさまざまな場面での声がけや指導を継続していきたい。
	各自のライフプランについて考えさせ、進路意識を高め個々の進路実現に向け活動をする。	・進路ガイダンスや講演会等を有効に活用し、生徒がそれぞれの進路を具体化させるとともに、進路実現のための課題を考えさせる。また、積極的かつ主体的に活動できるよう支援をすすめていく。	B	・進路にむかう姿勢や準備の面でサポートを要する生徒も多くいる。また、進路決定後も将来を見据えた行動ができるよう指導を継続していきたい。